

	一般的名称	報告の概要
720	メトトレキサート	脳卒中と診断されていないリウマチ患者33191例とコントロール99570例を対象としたコホート内症例症例対照研究において、メトトレキサートにより脳卒中が増加することが示唆された。
721	パクリタキセル	製造販売業者が作成した定期的安全性最新報告において、パクリタキセルを含む多剤併用化学療法を受けた患者において急性骨髄性白血病の報告頻度が上昇したことが報告された。
722	ロラゼパム	透析患者において、フルラゼパムを含むベンゾジアゼピン系製剤を使用している患者において死亡率が高まることが示唆された。
723	塩酸プロカルバジン	BEACOPP(プレオマイシン、エポシド、ドキソビシン、プレドニゾン)療法を受けた進行期ホジキンリンパ腫男性患者38例を対象としたプロスペクティブランダム化試験において、治療後に精液濃度の低下が認められ、無精子症や射精困難症が増加した。
724	塩酸プロカルバジン	ホジキンリンパ腫女性患者518例を対象としたコホート研究において、放射線単独療法と比較し、化学療法、特にプロカルバジンやシクロホスファミドの使用により早期閉経が増加することが示唆された。
725	クロルジアゼポキンド	透析患者において、フルラゼパムを含むベンゾジアゼピン系製剤を使用している患者において死亡率が高まることが示唆された。
726	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	少なくとも3ヶ月のインターフェロン ベータ(IFNB)またはglatiramer acetate (GA)治療を受けた再発寛解型多発性硬化症患者190例を対象とした解析において、IFNB投与により脊髄での再発が多かった。
727	フェノバルビタール	数々の疫学データより、てんかん患者の自殺率は一般集団に比べ5倍高く、側頭葉てんかん及び複雑部分発作は約25倍高くなることが示唆された。
728	フェノバルビタール	105名のてんかん患者を対象として、自殺行為の危険因子の性差を調査したところ、女性の方が自殺の危険性が高いことが示唆された。
729	フェノバルビタール	43名のてんかん患者(6-16歳)を調査したところ、フェノバルビタール投与患者では、カルバマゼピン投与患者と比較して、大うつ病及び自殺念慮の有病率が高いことが示唆された。
730	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	少なくとも3ヶ月のインターフェロン ベータ(IFNB)またはglatiramer acetate (GA)治療を受けた再発寛解型多発性硬化症患者190例を対象とした解析において、IFNB投与により脊髄での再発が多かった。
731	リン酸オセルタミビル	2007/2008シーズンに欧州でオセルタミビル耐性ウィルスが検出され、特にノルウェーで高頻度に認められた。
732	カゼイ菌製剤	重症急性膵炎患者において、プロバイオティクス投与群では、投与していない群と比較して多臓器不全、腸管虚血による死亡率が高まることが示唆された。
733	エストラジオール	閉経後にホルモンを使用していた女性において、乳癌となるリスクが増加し、中でも1日2drink以上アルコールを摂取している場合は乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
734	エストラジオール	現在または過去にホルモン補充療法を受けている患者において、髄膜腫のリスクが高まることが示唆された。
735	エブレレノン	4-16歳の小児高血圧患者304人において、エブレレノンに投与する二重盲検試験を行ったところ、小児に対するエブレレノンの有効性は見られなかった。